

一般質問



板木 正則 議員



録画映像

北斗市の財政状況に関する件

問 基金残高の考え方について

答 市長
残高100億円の維持を
念頭に財政運営してきた

問 北海道人口上位12市の財政状況が、今年春に新聞に掲載され、「火の車」との見出しで報道されました。

12市と北斗市では状況が違うと考えますが、以下の点についてお尋ねします。

(1) 北斗市の基金残高の推移と基金についてはどのように考えているのか。

(2) 市債残高の推移と起債の考え方についてもお尋ねします。

(3) 北斗市の財政に厳しい面はみられるのかお尋ねします。

(4) 人口減少が続く中、税収も減少すると考えます。

民生費をはじめ、予算全体にどのような影響が出ると考えているのかお尋ねします。

(5) 物価高騰が続いていますが、市としての対策についてと考え方をお尋ねします。

答 (市長) 12市の中に、本市は含まれていませんが、現在、どの自治体も直面している問題について言及され、私も市政を担わせていただく身として、財政運営の状況は常に考えなければなりません。

(1) 基金残高の推移と基金に関する考え方について、平成30年3月末時点の一般会計に属する基金残高は113億213万8千240円で、令和7年3月末時点の残高105億9千134万6千636円と比較すると7億1千79万1千610円の減となっています。

また、基金の活用に関する考え方については、残高100億円の維持を念頭に財政運営に努めてきたところです。

また、基金の運用については、何より安全性を最優先にしながら、歳入確保の観点から確実かつ効率的に行っています。

(2) 市債残高の推移と起債の考え方について、平成30年5月末時点の起債残高は165億6千483万7千223円、令和7年5月末時点は122億6千56万7千463円で、比較すると43億426万9千760円の減となっています。

また、起債に対する考え方については、起債というものは、あくまで借金なので、いずれ返済を要するため、将来の財政への影響を考慮しながら借入れをしているところです。

(3) 市の財政的に厳しい面については、今後、人口減少等に伴う税収等の減少が想定され、歳出では、人件費や扶助費とい

った義務的経費の増加、公共施設の老朽化の進展に伴う修繕や更新費用の増加が見込まれています。

(4) 税収の減少が予算全体に及ぼす影響について、税収が減少することにより、将来的に現在行っている市民サービスの質の維持が困難となることが予想されます。

具体的には選択と集中を進めつつ、市単独事業の見直しなどに取り組んでいかなければならないと考えています。

(5) 国の動きが鈍いことから、市民及び事業者へのさらなる物価高騰対策として、本年10月から12月検針分の水道料金と下水道料金の免除の実施に要する補正予算を計上したところであり、国に先行した独自の対策を行ってまいりたい。

公共施設の空調設備設置に関する件

問 公共施設のエアコン設置スケジュールについて

答 都市住宅課長・財政課長
本庁舎・両支所は令和8年度、総合分庁舎は現在分らない状況

問 北斗市では令和5年の危険な猛暑を受け、公共施設の空調設備については、「子どもが主に利用する施設を最優先に実施する」という方針の下、今年度中に

はすべての小・中学校に設置する見通しがたっていると思います。

公共施設の中でも、市役所や総合分庁舎、七重浜・茂辺地両支所の今後の整備方針についてお尋ねします。

答 (都市住宅課長) 本庁舎については、10月30日までに設計を終えて来年度中に設置予定となります。

総合分庁舎については、9年度春からの供用に間に合うかは現在分らない状況です。

答 (財政課長) 七重浜・茂辺地支所については、令和8年度で予算計上し、設置する予定となっています。



備品購入方式で設置したエアコン(本庁舎会議室)